様式第２号（第４条関係）

豊明市行政評価制度　「事務事業」評価票

１■事務事業の概要

１－１事務事業の名称	こころの健康づくり講演会等開催事業（シンポジウム含む）							
１－２担当	部	健康福祉部	課又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	健康推進担当係長　川原静恵

１－３総合計画における施策の体系	①節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」	③基本施策	成人・老人保健	コード	2―1―1
			④単位施策（中）	こころの健康づくりの推進	コード	2―1―1―5
	②項	健康	⑤単位施策（小）	こころの健康づくりの推進	コード	2―1―1―5―1
１－４事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）	こころの健康づくりへの関心を高まったり、心の病や障害を持つ人たちへの理解が深まる。		
１－５事務事業の内容	有識者を招いての講演会や関係機関の職員を交えてのシンポジウムなどを開催する。					

２■事務事業実施の状況

２－１事務事業の実施における基本認識

	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
平成18年度	障害者自立支援法の施行から1年が過ぎ、心の病や障害について理解し障害を持つ人と伴に歩むやさしい街づくりを考えるための第一歩とした。	ますます、こころの健康問題には関心が高まってはいるがまだまだ心の病や障害を持つ人たちの理解は不十分である。	こころの健康問題について関心が高まっている現状を受けて、提供する情報の選択や働きかけについて多様性が求められるところである。
平成19年度	現代社会の中でこころの病気にかかってる人が増えている。こころの病気について正しい知識を普及し理解を深める場とした。	〃	〃
平成20年度	少し視点を変え、「笑いと健康」をテーマにし笑いの効用を広める場とした。	〃	〃
平成21年度	健康づくり教室の中で、心の健康について学べる場を持った。	働き盛りの「うつ」「自殺」が重要な社会問題となっている。また、病気に対する理解の不足で、周囲との孤立感や家族等のストレスもある。	こころの健康問題について関心が高まっている。また、家族・周囲の人はこころの問題でどのように対処したらいいか悩んでいる人も少なくない。
平成22年度	働き盛りの「うつ」「自殺」は、職域・地域などでさまざまな取り組みがされています。健康づくり教室ではストレス・心の健康の大切さを伝えています。		
平成23年度	健康づくり教室では、心の健康の大切さを伝えている。生きる力を高めるために自尊感情は大切である。今回健康づくり教室の中で、自尊感情を高める内容も取り入れてみた。		
平成24年度	24年度は『こころ』の問題に限定した内容は実施していないが、健康づくり教室や出前講座等で健康には心も体も大切であること念頭に置いて教室を開催した。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

２－２総合計画における単位施策成果指標

事務事業成果指標名	前期目標値（単位）	後期目標値（単位）	指標の説明
こころの健康づくり講演会（シンポジウム含む。）参加数	100人/1（回）	100人/1（回）	社会情勢的にも心の健康問題への関心は高まっており、有識者を交えての講演会等の開催はその対策の充実度を表す指標　【資料】とよあけの保健

２－３成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）

	平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
活動実績 a（単位）	110（人）	111（人）	61（人）	39（人）	171（人）	170（人）	152			
直接事業費 b（千円）	76	52	30	7	24	24	24			
人件費 c（千円）	198	186	39	16	56	18	108			
合計コスト d（b＋c）（千円）	274	238	69	23	80	42	132			
単位コスト d／a（千円）	1人当たり　2.5	1人当たり　2.1	1人当たり　1.1	1人当たり　0.6	1人当たり　0.5	1人当たり　0.2	1人当たり　0.9	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ＞

【直接事業費】　臨時職員賃金　1,310円×2.0×9×1人＝23,580円　　【人件費】　3,000円×2時間×9回×2人＝108,000円

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（人）	110	111	61	39	171	170	152			
	後期目標値に対する達成度（%）	110.0	111.0	61.0	39.0	171.0	170.0	152.0			

３■事務事業の自己評価結果

３－１　評価結果（アウトカム自己分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度担当課評価	A	A	A	A	A	A	A			

● ４段階評価結果 A ： 上位目的である施策に貢献しているので継続する
B ： 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C ： 縮小等、事務事業としての見直しが必要
D ： 事務事業の廃止が相当

● 判断の基準 ①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

３－２評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	こころの健康問題への関心は、年々増加傾向にあり対応が望まれるところ。また予防という視点から正しい最新情報を伝えていく必要がある。	関係機関や施設とも連携しながら協働事業を進めていく。	講演会については、当事者・家族・福祉・医療・保健というそれぞれの立ち場での情報交換がされ、市民の関心が高まった一機会となった。
平成19年度	〃	講演会のみではなく、他の事業のなかでこころの健康について学べる機会が必要。	身近なテーマとしたため参加希望者が多かった。こころの病気について理解を深める場所となった。
平成20年度	〃	〃	内容が「講演と、笑いの実践」のため、会場の広さから６０人定員とした。今後もいろんな視点から内容を考える。
平成21年度	〃	健康づくり教室でこころの健康について学べる機会をつくる	健康づくり教室の中でこころの健康について学べる機会を設けた。内容を充実させることが必要である。
平成22年度	豊明市の各統計資料からみえる健康課題のテーマで実施。住民の関心が高いのか前年より新規参加者が多かった。今後も各状況を踏まえ内容を工夫していく必要がある。		
平成23年度	健康づくりの教室で自尊感情を高める内容に取り組む。心の健康に悩んでいる人は少なくない。保健センターでは、こころの健康の大切さについていろいろな機会の中で学べるようにしていく必要がある。		
平成24年度	健康づくり教室や出前講座、あらゆる場面でこころの健康のづくりについて情報提供し正しい知識を伝えていく。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

４■事務事業の総合評価結果

４－１総合評価の結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度	B	参加希望がありながら、参加できなかった人々の対策を検討すること。
平成21年度	B	参加者の増加に努めること。
平成22年度	A	継続して事業を進めること。
平成23年度	A	継続して事業を進めること。
平成24年度	A	継続して事業を進めること。
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		